

修士課程における教育の基本方針

〔2017年1月27日〕

放送大学決定

改正 2020年2月25日、2024年1月16日

2024年5月23日

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

<p>必要な修業年限を満たした上で、次に掲げる学修目標に到達し、修士論文等の審査及び試験に合格して所定の単位を修得した学生に、修士（学術）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 専攻領域における研究能力又は、研究能力に加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を身につけている（※）。2. 専攻する専門領域及びその周辺分野、さらに他の分野における専門知識や技能を修得することによって涵養される深く広い総合的教養を身につけている。3. 複雑な問題状況を把握し、そこで発見した課題を解決する高度な能力を身につけている。4. 自分の意見を効果的に正しく表現できる能力と、建設的に合意形成を行う能力を身につけている。5. あらゆる場面において、倫理観をもち、責任ある活動を管理する能力を身につけている。6. 国際的な視野、文化の多様性への深い理解、自然環境への配慮のもとに、社会に貢献する実行力を身につけている。7. 学術的な研究遂行能力を基盤とし、高度な職業的知識や技能に基づいて総合的に判断することができ、様々な課題を自らの能動的探究力で解決することができる。 <p>（※各プログラムに関連した分野の社会における顕在・潜在ニーズを踏まえた学生が身につける能力・知識等については、以下のとおり。）</p>	
生活健康科学プログラム	生活、健康、福祉の領域における専門的かつ総合的な知識をもち、生活環境をよりよい方向に導くための方法。
人間発達科学プログラム	人間の心理的及び社会的な発達のメカニズムを理解し、現代の学校や家族あるいは地域社会が直面する教育課題を科学的・実証的に把握できる能力。
臨床心理学プログラム	教育、医療・保健、福祉、司法、労働・産業等様々な領域で、広い視野をもちながら、臨床心理学に関する知識、心理面接技法、心理査定技法、地域援助法を用いて実践的に活動する能力。
社会経営科学プログラム	社会の構造と変容に関する基礎概念や応用知識をもとに社会における様々な現象を多様な見地から解明する能力を有し、様々な社会領域のガバナンスに必要とされる高度な知識と技術を実践的に活用する能力。
人文学プログラム	人文学に関する基礎概念や専門的知識をもとに、現代社会における様々な現象の本質を見極める能力及び人文学の様々な専攻領域に加えて、他の分野における専門知識や方法論の習得による総合的な知見と創造性をもって知の発展に実践的に貢献できる能力。
情報学プログラム	情報学に関する高度に専門的な知識と技術を習得し、社会に貢献する力。論理的思考・計算論的思考。実際的な問題解決に必要な人文・社会科学、工学、自然科学に関する広範で深い知識。
自然環境科学プログラム	科学的認識に基づいて問題を把握・理解し、その解決を指向する科学的実践と客観的評価ができる能力及び高度な総合的教養。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

【教育課程編成】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針で教育課程を編成・実施する。

1. 放送やオンラインによる授業科目及び対面やWeb会議システムを活用した研究指導等をとおし、高度な総合的教養に裏付けられた専門的学識及び知的技能（※）の育成をはかる。
2. 専攻する専門領域について、学士課程の教育課程との接続を念頭に置いた、同分野における発展的な科目を配置する。
3. 専攻する専門領域の周辺科目や他プログラムの推奨科目及び関連科目において、深く広い教養を涵養する。
4. 論文執筆の考え方や方法、学術的研究手法等を、それぞれの研究分野の要請を踏まえた実践的なコースワークを通じて段階的に習得するため、研究演習科目を設置する。
5. 前項2～4の科目の学修成果を生かしつつ、修士論文等を段階的・計画的に作成するための研究指導を行う。

【学修成果の評価方法】

授業科目・研究指導科目それぞれの特性に応じて評価基準を設け、単位認定試験、または形成的評価や達成度評価に基づき成績評価を行う。

修士論文は、修士論文評価基準に基づき、提出された論文と口頭試問によって評価する。

（※各プログラムにおける専門的学識及び知的技能については、以下のとおり。）

生活健康科学プログラム	生活、健康、福祉の領域における専門的かつ総合的な知識をもち、生活環境をよりよい方向に導くための方法を習得し、人々の生活の質の向上に資するための施策に積極的に関わる能力。
人間発達科学プログラム	人間の心理的及び社会的な発達のメカニズムを理解し、教育の社会的・文化的・制度的条件や歴史的背景、心身の機能や構造の発達の变化について、科学的・実証的に把握する能力。
臨床心理学プログラム	臨床心理士養成カリキュラムに定められる講義、演習、実習の科目群の履修を中心としつつ、教育、医療・保健、福祉、司法、労働・産業等様々な領域で、広い視野をもちながら、実践的に活動できるための、臨床心理学に関する知識、心理面接技法、心理査定技法、地域援助法、研究法の修得。その際、対面での実習・演習、臨床心理実践の現場での実習、対面での研究指導によって、実際に他者と共存する場での臨床心理学的な振る舞いや感覚、思考法を体験的に習得。
社会経営科学プログラム	様々な社会領域のガバナンスに必要とされる高度な知識と技術をもち、社会の構造と変容に関する基礎概念や応用知識をもとに社会における様々な現象を多様な見地から解明する能力。
人文学プログラム	人文学に関する基礎概念や専門的知識をもとに、現代社会における様々な現象の本質を見極める能力及び人文学の様々な専攻領域に加えて、他の分野における専門知識や方法論の習得による総合的な知見と創造性をもって、知の発展に貢献できる能力。
情報学プログラム	情報の数理的側面・処理・機構・技術と、情報と人間・社会との関わりについての専門的な知識と技能。
自然環境科学プログラム	科学的認識に基づいて問題を把握・理解し、その解決を指向する科学的実践と客観的評価の能力。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

教育理念、教育研究上の目的等を踏まえて、生涯学習の実践をとおして高度な総合的教養に裏付けられた専門的学識及び知的技能を修得し、文化の進展並びに地域社会に貢献できる人材を養成するため、以下のような学生を求める。

1. 地域社会・職場等における豊かな経験や専門領域における知識（※）をもつ。
2. 実際的な問題解決に必要となる、専門領域の周辺分野に関する知識をもつ。
3. 自ら課題を発見し問題を解決する能力をもつ。
4. 自分の意見を論理的に表現できる能力をもつ。
5. 学問及びその実践への応用に対する意欲と鋭い問題意識をもつ。
6. 生涯にわたってあらゆる機会、場所において学び、その成果を生かしていく意欲をもつ。
7. 自分自身で課題を発見し、調査・検証をし、研究論文を執筆する能力をもつ。

（※専門領域における知識等については、以下のとおり。）

生活健康科学プログラム	生活科学、健康科学、社会福祉学等の領域において研究を行うために必要な専門的知識と、英語文献の読解力。生活の現実や健康の問題、それらに関わる専門職のあり方に常に関心を向けながら、学問・研究との接点を探ろうとする姿勢。
人間発達科学プログラム	心理と教育に関する研究を行うために必要な専門的知識。
臨床心理学プログラム	臨床心理学に関して、心理臨床の実際の中から「臨床の知」を紡ぎだすための専門的知識。心理臨床現場で専門的な心理職として仕事をしたいと望む確たる内的必然性と動機付け。既に心理臨床現場で経験を積んでいる場合は、心理職としてのレベルアップを目指し、心理臨床経験を学問として深めたいと希望する意欲。
社会経営科学プログラム	社会と産業のしくみについての専門的及び学際的な知識や、持続可能で豊かな社会を生きるための幅広い技術と、英語文献の読解力。
人文学プログラム	思想・芸術・歴史・文学をはじめ、人間の生み出した文化のありかたについての様々な学問領域における専門的知識と、英語文献の読解力。
情報学プログラム	情報学に関する知識と技術。論理的思考・計算論的思考力。実際的な問題解決に必要なとなる人文・社会科学、工学、自然科学に関する知識。
自然環境科学プログラム	人間活動と自然との関わり合いや持続可能な未来に向けた実践と判断に関する専門的知識。

放送大学大学院文化科学研究科 修士課程DPとCPの対応一覧表

本学では、設立の趣旨等を踏まえて、各教育課程における教育の基本方針を策定し、「修了認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー：DP）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー：CP）および「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー：AP）を示しています。これら三つのポリシーは相互に関連し、一貫性を持って策定されています。特にDPとCPには、修了・学位授与までに学生が身につけるべき資質・能力とともに、それらを達成するための教育課程の編成・実施方法、および学修成果の評価方法が具体的に示されています。以下の表は、DPの各項目に対応するCPの主な関係性を示したものです。この表を参考に、自身が学ぶ教育課程の目標と構造を理解し、計画的な学修活動に取り組んでください。

	CPとの関連性				
	CP1	CP2	CP3	CP4	CP5
DP1. 専攻領域における研究能力又は、研究能力に加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を身につけている	◎	◎		◎	◎
DP2. 専攻する専門領域及びその周辺分野、さらに他の分野における専門知識や技能を修得することによって涵養される深く広い総合的教養を身につけている。	◎	◎	◎		
DP3. 複雑な問題状況を把握し、そこで発見した課題を解決する高度な能力を身につけている。				◎	◎
DP4. 自分の意見を効果的に正しく表現できる能力と、建設的に合意形成を行う能力を身につけている。	◎			◎	◎
DP5. あらゆる場面において、倫理観をもち、責任ある活動を管理する能力を身につけている。				◎	◎
DP6. 国際的な視野、文化の多様性への深い理解、自然環境への配慮のもとに、社会に貢献する実行力を身につけている。	◎		◎		
DP7. 学術的な研究遂行能力を基盤とし、高度な職業的知識や技能に基づいて総合的に判断することができ、様々な課題を自らの能動的探究力で解決することができる。				◎	◎

CP1. 放送やオンラインによる授業科目及び対面や Web 会議システムを活用した研究指導等とおして、高度な総合的教養に裏付けられた専門的学識及び知的技能の育成をはかる。
CP2. 専攻する専門領域について、修士課程の教育課程との接続を念頭に置いた、同分野における発展的な科目を配置する。
CP3. 専攻する専門領域の周辺科目や他プログラムの推奨科目及び関連科目において、深く広い教養を涵養する。
CP4. 論文執筆の考え方や方法、学術的研究手法等を、それぞれの研究分野の要請を踏まえた実践的なコースワークを通じて段階的に習得するため、研究演習科目を設置する。
CP5. 前項 2～4 の科目の学修成果を生かしつつ、修士論文等を段階的・計画的に作成するための研究指導を行う。